

選外佳作の五

粘土のよろこび

小 塩 れ い

或る汚ないお店の片隅に、埃にまみれた粘土ちゃん、ボツンとつまらなさそうに坐つて居ました。

「あーあ、今日もこれで日が暮れた。」粘土ちゃんは欠伸を一つ、しよう事無しにしたあみでつばやき乍ら、さてくねようかなと思つた時でした。

「ちようだい！」元氣な坊ちゃんの聲がしてチャリンと一錢銅貨が一つ、お店の箱ガラスに音がしたと思つたら、粘土さんの體は、フイにあたゝかいものにつゝまれてしまいました。それは芳郎ちゃんも云ふ坊ちゃんの手でした。坊ちゃんは今お母さんから、一錢もらつて、急いで粘土を買ひに來たのでした。

「アッヤ」粘土は一時はびつくりいたしました。でも今に、さうにかなるだらう、あんなケチな暗いお店さきよりまだましき、粘土ちゃんのはのんきに考へてみました。

「こころがです。それから、おもしろくなりました。」

芳郎ちゃんは粘土ちゃんを手に入れると大喜びの大はしやぎ。

早速家へ持つて行つて始めはおだんごや、おまんぢうばかりつくつて居ましたが、そのう

ち坊ちやんは、粘土ちやんで、上手に、上手に、いろんな動物をつくつてくれるやうになりました。

いちばんはじめは兎ちやん。つぎがワン／＼ちやん、象ちやんにもなつたし、熊ちやんにもなりました。粘土ちやんはもう、うれしくつてうれしくつてなりません。兎ちやんになつた時は、おもはずさび上つて、おざりたくなりました。ワンワンちやんになつた時はワン／＼ミ吠えてみたくなりました。象のお鼻の長かつたこま、ブランブラン／＼振つてみたくてしようが無かつたのですけれささうしても出来なくてはがゆい位でした。熊ちやんが又よく出来たこま、くり／＼肥つておばさんや、おぢさんまで、あゝかはい／＼／＼云つて下さつてみんなに得意だつたでせう。だのに、だのに、です。

或日粘土ちやんは坊ちやんのお伴して野原へ行つたのです、又野原の日向ぼつこで、今度は何にして下さるだらうかなさたのしみにしてゐましたのに、……………。

ポタリ、いきなり粘土ちやんは、草んぼの中へ落つこちてしまいました。坊ちやんのボケツトに穴があいてゐたのです。ワーン粘土ちやんは大きな聲でないたつもりでしたが、芳郎ちやんには聞えなかつたかして、すん／＼足音の遠ざかつて行つてしまつた時の心細かつたこま。さうなる事だらう、粘土ちやんは、小さい胸を抑へて、ブル／＼ふるへてゐました。が突然ポーン 横つ腹をけつさばされて、ひろつばにほうり出されました。

「アタツ」 目がくら／＼しましたまんま 暫くポーツミお日様にてらされてゐますミ、又「グシヤツ」、今度は頭をいやミ云ふほごふんづけられました。みんな人が通つて、下駄や靴でして行くのです。

「あーあさうなるんだらうなあ。」

粘土ちやんは、ほんきに悲しくなりました。そのうちに雨がシヨボ／＼ふつて来た時は、もうたまらなくなつて大きな聲でワーン／＼泣いてしまひました。涙をぎんなに流しても、ダァ

「レもさうしたのさも云つてくれる人はありません。雨さ泪でびしよぬれになつて、いまにも
くさけてしまひさうになりました。さうなる事かミ氣も遠くなりさうになつた時、やうやく
お日様が出はじめた時のうれしかつたさ、でも粘土さんは悲しいこころにこの草んぼから一
歩も出る事は出来ません。

その時、「アラッ！ネンド！」誰か、かはいゝ聲がしたさ思つたら粘土ちゃんは又せんをやう
に、おぼえのあるあたゝかい手に拾はれました。

でもそれは、芳郎ちゃんではありませんでした。さこの腕白小僧だつたので、前のやうに、
おもしろい動物にも、おだんごにすらもなる事も出来ず、たゞ粘土さりの、塀にぶついたり、
ロクでもない玩具になつてゐるばかりです。つまらないなあ、粘土ちゃんもそろ／＼不平になり
はじめ、その日もボンヤリ塀にはりつつけられてゐますさ、そこを通りかゝつたのは端なくも
芳郎ちゃんでした、あ、芳郎ちゃん！粘土ちゃんは大聲で叫びました、聞えてか、聞えなくて
か、芳郎ちゃんはうまい具合にヒョイさふりかへつてくれました。そして、「アリア、僕んちの、
ホンナコテ僕んちの粘土あつたよ……」と云つてくれた時のうれしさ……

粘土ちゃんが芳郎ちゃんの胸にさびこんださ思つたのですが、それよりさき芳郎ちゃんが粘
土ちゃんをひつたくつてくれたのです。

あゝ粘土…… あゝ芳郎ちゃん……

粘土ちゃんはそれからどんな動物になつたでせう。たのしいたのしい粘土ちゃん、うれしさ
うな芳郎ちゃん。はいおはなしはこれでおしまい。一九三七・三・六作

附記 當地方では粘土に色をいれて少しづつ賣ります。